

# LED化へ

## 防犯灯はLED化に

### 速やかに対応していく



大森 茂彦 議員

**問** 2023年に行われた「水銀に関する水俣条約第5回締約国会議」において、蛍光灯には微量ながら水銀が含まれるため、蛍光灯の製造と輸出入が2027年末で禁止になる。町民の安全を照らす防犯灯は何基あり、どれだけLED化されているのか。

**住環境課長** 現在、1612基あり、そのうち光源がLEDのものは209基でLED化率はおよそ13%である。

**問** 3人の区長から話を聞いた。ある区長は80基

中20基をLED化の申請をしたが「予算がないと言われ、1基しかやってくれなかった」と。その後、3基が壊れたが、3基とも区費で交換した。私が町に申請したのかと聞くと、その区長は「年間1区1基とのことなので、

申請していない」と。別の区長は「蛍光灯の交換を依頼している電気屋さんがケガをして、もうできないと言われ、預けてあった蛍光灯が戻された」と。

町は、太陽光発電システムには、増額補正をしているのに、防犯灯のLED化に増額補正ができないのか。年次計画をたて、実施すべきだが。

**町長** 町民の安全・安心のために、防犯灯のLED化計画を作成し、速やかに対応していく。



LED化された防犯灯

## 委員会報告（閉会中の調査）

### 地域創生施策をさぐる

総務産業常任委員会



小川町霜里農場  
ろ過した天ぷら油でトラクターを動かす

総務産業常任委員会は10月15日（水）～16日（木）に埼玉県横瀬町、寄居町、小川町の視察を行った。

◆横瀬町では、町とコラボして、まちづくりの実践や実証実験などができる「よこらぼ」という仕組みを2016年からスタートさせた。

まちづくりを行いたい人たちが提案概要を申し込み、関係各所で採択となれば、提案者のプロジェクトが可能となる。

今までの提案件数234件のうち、141件が採択され、「遠隔子育て相談・小児科オンライン」や「電動キックボードシェアリングサービス」など多種多様な事業が採択されている。

多様なアイデアを積極的に受け入れ、住民、企業、行政が協力し合うことで、「チャレンジがチャレンジを呼ぶ好循環」が生まれ、人を惹きつける魅力づくりを行っている横瀬町の姿勢に大きな刺激を受けた。

◆寄居町では、中心市街地活性化の取り組みについて視察を行った。中心市街地における人の往来の減少や若年居住者の流失等が顕著となっている中、町の賑わい創出として、駅前にある道路の拡幅や歩道の整備、また「集う」「憩う」「交わる」がキーワードとなっている住民の交流拠点として、駅前拠点施設「Yottete」や賑わい創出交流ひろば「YORIBA」を建設した。

人々が自然と集まり、心安らぐ空間で交流できる場を提供している点が魅力的である。「人と人のつながり合える場」をどう創っていくか、今後の参考にしたい。

◆2023年に「オーガニックビレッジ宣言」をした小川町では、豊かな土づくりでもたらされる有機農業の取り組みの視